



長瀬村利七漂流談
全

ル 2
1070





門儿 22
號 1070
卷

儿2

章	書	藏	爵	子	世	久
價			全	第	第	第
金			部	八	九	九
		五	一	十	部	部
		十	冊	一	番	番
		冊		冊	籙	籙

長瀬村利七漂流談 前卷

凡例

一 記中之異詞ハ悉ク映略詞ト知ヘシ香港唐

音ヒヨコンコンイキリスハンカン之如キモ同新上海唐音イキリス

シヤレハイ皆同

一 記中里程ヲ去モノ皆イキリス道法若本邦或ハ唐山ノ道法ヲ以テスル寸ハ直ニ其所ニ註但海上

漂流中ハ本邦ノ道法也

一 イキリス道法利七曰乙吉ニ聞所ハ三尺五寸ヲ

以テ一會クワンハルト云右子百六十余具ニト一里ト云

又曰同行ト彼是考合スルニ彼カ一里ハ我ガ

世丁ニ不足ヤウ思ハル

又曰彼カ坤輿圖ヲ見ルニ正帶十度ノ一局六
 百里四方ト示セシト云
 昌忠按ルニ會爾尺西洋各國不等ト雖大
 方曲尺三尺三寸令五厘九毛微強ニ過ル
 乙書ニ聞所千百六十會爾ノミニテハ
 我カ廿丁ニ不足
 又正帶一局六百里ト云寸ハ其一局
 我邦ニテハ二百八十里世六丁タレハ是ヲ以テハ
 推等スル寸ハ其一里ハ我カ十六丁十八間
 ニアタル
 一 算作玉海曰イキリス一里ハ我十二丁餘當ル

一 書云イキリス道法

陸行 千六百零九會爾 我十三丁十八間半
 海上 千八百五十二會爾 同十五丁四十一間
六尺令二分余ニテハ
 何レカ是ナル莫チ不知尚考フヘシ

印

人 カマトハ

コトハ

船

物名

城下物數

法事

世界

神

役人所名

國名

鉄炮肩仕

長瀬村利七漂流談前卷

真多昌忠記

夫一得り者ハ必一失有是萬物の常ニリ去は連年
 異國人船志付一末ニラウモモ漂流人の彼亦
 助ニシテ歸ル者多キハ亦候一カクテヤ安小伯存
 國河村郡長瀬村妻高押子高郎事文也今交漂
 流人と成リ其元氣尋々に父母兄弟と別レ彼等
 多ク親代ニシテ百姓家にも見何来居先と賣拂ハ
 近去地回ニシテ其節利七漸ク十四歳カク獨
 身ト成親類も其薄縁のニシテ他人同根ト成
 邊村處々日雇ヤシクシテ其自覚ナク

西風東風仕合より小拾六丈の時進村船接し厚九
丈の志摩國に出十七丈の二月頃分千四百石積
知勇九船頭式那橋津東より船物より雇都右五年
程乗組七十八丈より船主より取立より給金
陳程貫し古一歳のとき古船他更有り將く休
其節暇成りし堪州灘船成りし酒樽其不
荒物積込度より長通ひり分ち船主より時
より何せ習りし利名希定り成りし時永二年
酉七月攝州免原郡大石村板屋八三節と申者より
百石積込拾五反帆永力九と申船紀州二浦より
新造より右沖船頭攝州加古郡高西村

兼統、水主、雇同人始水主十六人七月六日以右
二浦、舟載漸く同十一月朔日船中仕立船より
同十二月中以船主より常、常席、喜后翌成年九月
と度より江戸表上下仕立船より長通ひり分ち同十
舟長のより酒樽其外荒物積込出帆市、沙を
浦賀志摩所浦改改文十月九日、江戸表着船大川橋
靈巖島井より新八節と申者問屋より積荷物水
揚より同市同古二日出帆翌日三日浦賀、入律より同市
より大小豆麦其外干鰯物より各四百石足中、積入
同十六日同所出帆より伊豆遠江の沖煩風より健
のより志摩國大王崎より九日の日暮より進、健の
より喜夜の四、時より大北風より吹受り雨より甚

梶本より朽き舟身たりりし一箇、江師より舟の好
嶋大神宮金毘羅大壇廻く祈願す。右ノ波ノ
帆柱成切け三分の一と切らると思ふに橋を断す。振
折ぬ去まじし一箇、三月申入るとは猜根路の働き也
か。一箇、舟を此ノ島晦日の夜ハ、湧りてせし和さ十
一月朔日朔四方成詔すは廿四五里なり。と竟る
遠口山の方ノ山の如きもの見へし是は地もろろんと
おりの色を、此の波を集る。假帆成化く、捷りりり。
此時柱を架す
勢多島漂首の
船十里申と捷つてんと思ふ。良風細く、舟ありて時朔日の
夜申す。又大西風を、舟方たりりか。と皆く、舟号
評議し、舟ハ、此後、舟の船主危く、竟る。舟ハ、新造の

船よりたりりハ、一二年漂流する米ら百六拾俵
も積居る事なり。此ハ、時死する事なり。何回ハ、何カ
所、河を漂着せは、又舟の船を、舟も有る。ん、兎角、船
と助さず。碇、青島、梶の代り。浪風、舟を、送、船
は、流り、三日申、五日よ、又志け、成り、西、九日の夜東
風、子、変り、浪和となり。又、地方、志、十三日、船、防、以、又
二百、江、十里、も、せつ、んと、思ふ、而、十三日、船、防、以、又
西の方、墨の如く、曇り、程、大風、吹、起、り、殊、に、雷、傳、
舟、身、危、く、舟、身、は、何、ま、す、猪、根、路、の、働、き、一、日、切、断、障、
り、なく、去、ま、じ、し、一、箇、入、事、四、六、寸、悉、く、一、箇、折、く、又、表、
より、碇、中、青、島、下、加、賀、寺、二、箇、と、舟、浪、風、は、何、を
く、流、り、獨、獨、舟、底、と、し、流、き、由、り、時、り、米、ら、百、六、拾、俵

ゆく坊ぬきは末増留油・油よりき水膨くみ前中子
成ぬ物く形く日合食も十分焼かされち一統多中
りき極く切飯く配分は多く娘も食て十一月廿日
廿二日らちよふけりも一雨水も塩辛く雪付取るも同極く
是れ船身忽船ぬのからぬ所なりは常呂の上も
何所の塩の凝付ぬくも真く海も瓜葉く焼耐と飯
法のくくは清水取事は一日も出来位は取し心又
ハ新く煮下りて

此漂流中船頭も船主も大抵に船長も何れも何れも
括り心公帯免船主も妻若公感のく汲和きお古妻若若
下り取出し誓敬せよとらぬとさ子も一妻若若若

面白くぬきむしのみ言むく押きりり或時を繕約する事
しりり味増留油をとりし生らるる塩もては新
て心用の事りんく干物くく玉との事く物約
さる事又或時を全取致す取く船か、不残分
ありり勝る者も悉く取く塩もくく遊之を
増廣くくも事し何れはく一命を助る事
竟末なりれる全取致す何れをせん勝る者も
此一人の物とせんもせん止まはし原取致す投入
取く有る者も情かり取揚る者も揚るか取取り
取なりり云りア、何れも實境は隔るも何れも剛強人取致
浦島散をもりりり一万里炎荒らる一島の眼人きりり
のたき空あのかく危難の孤船も月日取事もりり

民の心中推量する意風也

十二月朔日大志節又七日是朔の大志節と成流中へ
又十九日大志節と成る漂流五十三日宿坊九節の大

志節の中は殊大威の十月廿九日晦日又翌月十日と極月

十九日と成流は連日と成る事と成る也

碓の山ありて此の山は山行能 おぼかりの中も柱切ら一五のくく 時利七と看昔 あまのたすけを有文通の世

のちや貴(原ま)と成るは理をたし老翁

来り由り記次との有是をを強きと日景と成るは

ふまは夏ふやりのと又慶入ぬ時と成るは又記と自若

る生古神一室大明神注古大明神なり 長善寺
其神也

因曰神社の雨の方氏家のと、源のと在流のと長

瀬村の思と一而宗の神社をき切の私と成る者も

は忘憐成憐の若もたると于時去ら羊富五月禁の

氏家と成る也一而宗の祥福を成始と成る社也

氏家為焼失く大南風と成る社地の松焼程も小な

ゆゑを焼くると社をさしと換へるとは保靈験

著明なり神なり

此今宵の言渡り(き)りて原と云去りり一利七と成る何事有也

と知るとも成る也と場人となたり甘御魚と成る也

と成る何と成る新有言なりは神降をんく洞のる

のちの山も成る大津有と成る也表のすぐま

打碎きぬ若元の雨と成る也成るは成る命成る也

とて海軍神の御落の魂もあはれにまじりて心をこらせ
眼の洞より瞳のるふ唇の者もあはれに音の何事せとて写し七云
本名刺七上レ氏教アリテ
又た云切名子三郎と云

の道や以来つとん能く改むる事ありて云れども守能く成りし
可う六月半浦の表の方さけつらなる果するまの十一人上り
彦直六人を夜敷とてつらなる成基んとす。に海軍神の
浩方後九面よりまじりてつらなる成基んとす。に海軍神の
船中。とらざる事ありて忠義とて守能く成りし
彦直の見る事ありて真にすやと云ふ。きりりせむとす。右腕の
方よりつらなる。柳二人を阪城替つて云ねる。今日阪城の
子橋のちり各十人より金銀のり。薪水いづくや。形もあはれ

少き大塚今一つ来りて中夜形もたりのり。あつて。守能く成り
あつて。何の甲斐。つらなると云ねる。あつて。守能く成り
聲か放ちあつて。疾く。首の語を。極め。たつて。万二の神
佛の御護成。あつて。助の事ありつらなる。とす。守能く成り
今とて。口おさる。と云さ。守能く成り。あつて。改む。咽く
通り。あつて。守能く成り。是迄の命とて。云さ。守能く成り。あつて。
儚ん。方なく。覺ら。守能く成り。あつて。守能く成り。あつて。守能く成り
付國の。場し。流し。守能く成り。あつて。守能く成り。あつて。守能く成り
なり。守能く成り。あつて。守能く成り。あつて。守能く成り。あつて。守能く成り

十二月廿一日の揚州。守能く成り。あつて。守能く成り。あつて。守能く成り
と守能く成り。あつて。守能く成り。あつて。守能く成り。あつて。守能く成り

その事しむるに文部中二人大男の口を以て血を以て
りて思へらるる英國人を牛豚の生肉を喰ふと
せば其血の毒なる少や河を飲めばと申すは喰ふ不
や河を飲めば毒なる少や河を飲めばと申すは喰ふ不
異人の志似しるる喰ふ不かつ毒なる少や河を飲めば
付何れも困窮窮の事未だ毒なる少や河を飲めば
小なる事とし水も毒なる少や河を飲めば
吞しつらよ其毒なる少や河を飲めば
の粉の焼物取の如く授けり
と出さるる何喰ふ事成れども相異人曰是れは英國の
らんやと毒なる少や河を飲めば

其口思ふ事付タルハ一昨日ノシケニ被ホリ
船モ危カレハ其時ヤ大セシナラレト云

蘭云
又舟の塩漬

我々組々しく色を以て然るを其子達大勢助け
し事なきは猶も喰ふ不足なり在りしは今も
皆く十割の如くは我々の如く中途に臨
死を以てたがひの身意成るるに物日下なる
日は歳度食事も少やと問ひて之度こそ昔も物食
も二度ありし事も湯水も何れも吞ぬ物と云
事なる事なきは何れも湯水も何れも吞ぬ物と云
少やカリホニヤと云ふ事も問ひて之れも七人の如
来ぬ是れも助けし事も五日目より彼の船中
病人の如く人を見し事も彼方一人物も皆の
主人かせしと云ふ事も彼れも皆を命、物成し物も利七と云

船の多し〜〜を度橋高き付繩棧子あり〜
より構へ〜は四方の船より〜ふ必るり危し
初きより〜は白人と異人と曰れ飲食させり〜何の事
もたまり〜とす

おはし十一月廿一日より船名印々〜〜

北亞墨利加洲カリホルニヤ入港を以て

元々メキシコ師の〜其地をカラフボウナイオンカラ

^{カラフボウナイオン}金山ト云う〜

物産揚〜荷物も廣東仕入少く奈麦の粉

糖と各種多し其日役所へ移〜あり〜

小石相向〜其役所人移〜者主七人見改り

来り居黒羅洲の善物同神尤右〜金の牡丹を

九り所〜丸の目桔梗の丸中位の紋所を背名と

ふめ太物〜紋所〜盾〜金の丸物所〜頭中〜

浪の〜の〜金の子馬を〜力草紐〜

の事賜〜向〜次役人同將來〜

〜金の輪附〜下役四人〜^{メレイハ日本ニハ}且又所謂

船將〜云々〜云一夜の事は〜この船より

^{凡て吳邦人々各港名通の海〜通故〜}羽三日

其船〜見〜見〜軍〜船〜

正三間横四間鉄板の長〜或る位幅二尺

奇〜なり〜成〜た〜き〜諸〜

二丈中り小不為と有り

石鉄造の船と鉄板成場と包ととては大砲成史
も喜いたるんとの事わく能く是れ且重く海に
成捷の時一旦沈くと又深くは波の来りて海に
用ひかゝると是れ港に沈みて番所からと改り
何處も其船より何とて百捕有具船と連ゆると
味次方七日十四日は一日ゆり小哉汗海に飛り
舟とて若し固と揚と所より来船荷物の際送
し形と山谷改と其形より荷数々なき者とてと面
倒たりと事なり礼も女形より荷数多きと沖合に
強盗ともいせぬりと冷味とくと云り所傳也船

海一色の雨捌いり改船也

子ノ歳二月七日以軍船一艘港に入昔船の者其是成
魁と江のり帰る船来きとと魁各船成見
普通の高船より改如何なりと思たり同十日浦
船と迎ひて来船十七人皆男子船頭若丸
病ひ居り彼船より乗船のり客付サウシヤウ博士四人
入口小阿利支より十二人々た右と立並ひ店別り
曰イキリスシツビキサベ漂流人ノガサ言と

イキリス シツビキサベとイキリス云々我知と居り
恩流人ノガサと書たりと知ぬと云ふと故其流人同後
橋二本石火矢廿二挺成場と玉目四有佐宗組人数
二百と指ぬ人鎗扱と物と箱箱又筒小筒又数程

多き事少す相承けし時十二日卯出帆

さしぐ二午二百里艦アウアイハイサズヤイレ乙

小着孫次ハグとシ地鳴玉の居也

合セラニ 病甘三日月也病根全ク大勢の船子候領

船將日本の毒方候同ハ船相ノ候ニ埋れ申候云

大工箱成化ノ死骸成入真鴻の山ハ持登るんと云

荊棘山脊ハ生後リ堂ニ事アリ

八人ハ船中人ハ船將道成に付

命ハ後ハ其鴻元イキリス支配と音見

路成知マタ嶋島跡カク其後

口調ハ能道切ニシテ是ハ二十町

命ハ其鴻の命ニ付

毒ハ其鴻の命ニ付

穉室の如く作上ニ其蘆の

流ニぬ為ヤル三月四日頃

少少日陰の如也耳蘆の五寸

ハれハハシ事ナク又切事

也芭蕉の實の多ク又蕃薯

の如く竹根柱りト事ナク

サハハ生其柱を時ニナク

小堀五中ハ又椰子シマ

滞船ニナリ事九日ナリ

十四又日の以度東ノ渡

時月ノ辰北ノ見

りく廣東の香港よりぐら七里廻りの海なり尚時
イキリス支配と成るハレカレより又オランダ船も亦皆
世界に二艘といふ大船の中也名をサシコハナ長廿五

五間楫七間余るを矢槍を挺設備ふ 田大積三挺長十九尺位筒口七寸
二重蓋ははりも玉目七八百目又

方挺玉目七八百目皆致遠小八唐金筒玉目一メ六目又メ八百目兼組
三百余人数多所八船亦ヨメ石火矢ノ多所ニヨルコトナリ夫より四五日しらく申の方

黃埔より此地廣東の城下より二里下川中の嶋に

又ハシカレハゆりし時倭語あり其子遊ち何國の人かと

問ふ者りち右筆さき此河城多人せと云ふ此前國語系漢

カ語といふ者去々天保五年漂流し朱といふ彼云其

子遊ち陽の度や南の度やといふとも彼者我より勝成

探しし南をんと云ふと推量しし何連も早くも

是れは世に河連の道に適合し世に於て我が家に来しもの

カ語者抄節イキリス後而より南守なりつとて中房

のうき者も極く貧乏なり久しゆりし日本風の食食

し遊しとなり良なり力松もゆり何んかと物語をた

其子遊ち及ばまも世に及んき中々容易の事なり

又其子清飯道に水物も吾如くしし沙所より止りし

彼所は鯛の甲房と要し生業相成れ由世に及りし

兎角極く南をんと云ふは何れもつしすは

何れも笑しし遊さしせすしし一禮りし其日を何れ

皆く相談しし心は何れも一礼りし我れは切し極めたる

事なり日本何れも交易し何れも就夫日本に歸國しし

ゆも何れも軍船なりしは何れも志しし方りと云ふ時

くなく、本邦へ道は立地ならず、揚船者名を

北の港 北の港

是より舟より先か舟より七人の候と傳ふ

船頭も其子達も申部賞ひしなりと候旨を

早に傳へしと云然れ去きと候傳ふれ九人の吾々の

道より船持りし前出河内んと乗事所へ傳ふ候と實

し知れず候也知れぬ候と申すも也河内云々

又年、方四十里申合是門に至る十日申、**暹羅**スナ

アメリカより兵糧舟一用兵舟或る船來りし

時、播磨の泊地同國彦右郎、**播磨**の龜花右之丞船

連舟其船より舟ありアメリカ、**暹羅**の何れ

又ハシカレ、**暹羅**又**厦門**より**香港**あり三百里申

力と其港の向ふ合をす、**香港**の二夜は地

より航あり、**暹羅**人あり、**アメリカ**人、**孔明**と

の舟より者も皆**廣東**より送りたり又ハシカレ、

一月ハメ子テハシカレ、**暹羅**より七百里立日

陽十七島あり、**暹羅**へハシカレと云、**暹羅**ハシ

ハシカレの**支那** 昌徳曰ハシカレハ神ヨリハシカレ諸島 **支那**ハ

長暖を候候あり、**暹羅**の舟あり、**暹羅**の舟あり

折ると云す、**暹羅**の舟あり、**暹羅**の舟あり

舟あり、**暹羅**の舟あり、**暹羅**の舟あり

四月十七日より、**暹羅**の舟あり

其の二月中旬ハシカレ、**暹羅**の舟あり

次、**暹羅**の舟あり、**暹羅**の舟あり

四月、**暹羅**の舟あり、**暹羅**の舟あり

少所ふもイキリ又の能安なり日又日進るは汝節明主
再興清主と發わすレハいなとも大駭動をも蒙り
日也乙吉といふもの有流別知多都流の浦の産なりり
十四年前漂流せし者也若是と出會直し難難と
語りふ乙吉と云る信義ありとのそは彼の地さき懸て
云ふも力松も其子達成向うと我及思ふとのめり
おろしあより原其あはけ私をうへくくふりなれり
日也の事ちゆりせ去れ今年行ぬる来年行や
又大艘ゆりぬる十艘ゆりぬる又大舟ゆりぬる
船持く暇費費れし故も多難といふ昔河國成世に
んと古利七津くく梅をりになふり力船の日本に
おろし客易の事になぬぬる所たとも流す梅おろし
せんり若又昔号の漂流成遠る来り成以く流す梅の
流用控りんと思入るまなり而流す水く流國せん
事なりいしり原河平彼多り我離りへしは流す
し如何し可せん云ふ乙吉云何を船物暇費の
りしし思ふと暇成おはしりおろし若又世流く
んんしりし力か下碇ち四人の頭成り病く中國
し向しは若く船頭より暇成より中しは許
思やせし向せんと思ひ想ひしりし乙吉側しりし梅
しし云且下是も流物せんふりし梅はさしり
且安暇成より流しりし梅はさしりし梅はさしり
し是を若しりし又何の益なりんや其し是を若しり

瑞國を討んと思入し日本海より海知を急
りき討つ河松の瀬より船をよせんとしつりかき急
南に急攻めし助もききよと急ぎ、説き結ぶ也
彼船頭を納得しつりつり唯きりたりされし是
昨日の舟んとしと舟事なす月酒漂流人助ある
澄按おしと仙太郎夫人唯攻めたる一統也、御
事説とも請は仙太郎のの中、おのりひるよと
急に討明軍サレハ、居ると流言と城將の
四五斗の兵卒率しつり坊談の用とと城の廻り
三里斗江南省の小城僻の高きを突入す石火矢二百
五拾挺と伝へた、洛働せし明將上海へ向ふと
飛脚名静りぬ右の動乱しつり、皆くし右の事なり
かくしひ貫ふと四斗し右の房も天竺の産なる
お白のよき者も極しつり利甚しいとてし右の事極多
の時天保元年尾張廻船は指名人家ゆゑ知る所物大に風よ
流せし子と云島より漂着せしに皆病死しつり、此の人
生残り翌年イキス船たぬくセン子におむり去人此れ
と見えく連く船しんすす浮揚人おしつり、ゆは依
くイキス人思物成ありと存久をいひ帰し媽港マカオへ出
又カ松等此三人漂流しと昔よりイキリス六人成業しつり、
七年申年相州久里濱沖に來りつり、是は地方より小漁
船松の出來りぬ船頭のつり先其子遠き路を居る
我一筋討つしつり、時より急き呼出はなると云はは元

と流さるる利船頭日本流るる漂流人何國誰何國
の某方家来たりし事清版をよと云ふはたぬと
云く其船を向しぬ急危角と云り中陸より小石突来り
但し奇永陸成去り二十丁除くおん一子船と云右
おぬき茶場一界斗し花を海に入るとは不驚き近去ん
と云るに又船はおぬく又本船成おぬく異人たて悲怖し
よく迎去ぬ 異國人曰二十丁余有し日如人の神ひり 又より流州佐
玉母の強き子奇成り味の能くた 陀の岬より利世成り日本人中六人代指舟しをせく上
陸せり是れ六人上陸し我々も其の國其所の者
異國に漂流し歸る由、奇曲詔しは流州の
所より其母を國河河の子ととり事なすは相違
し有るし少と青、或は 一旦浦賀よりおぬき
者なりし清版難し不便なり返り國しと追
詮方なり元船より急角より四面より、羅薩を
眺る石火を放ちる山岳し明く如し其漂流室
斗し有りは玉の布をまわし其威勢小
急退船せんともりり切り船成りんとは國り
辺舟更に後やと迎おしと云やと云其時船二艘
イキリス船成極く漂を去ると身来りし今思
昔其時海に飛入而船成見南に遊き行を流州
清版おぬき河に助けおぬきふたは其時中
右のこなりしと男と今更殘念なりと語ぬ右
通るの仕合し再し國の難し十六歳の時漂流し
父母への存養は父母の知さしなりぬらん

と朝夕は夜おきよりせきくち國の漂流人々を宿し
ゆへに成る父母の眞福やをんと思ふべしなり小能列
カ善助以来漂流人と世帯しつゝ物取事六度しりき、母又
四千人の大将カワト来りし係りカワトの船頭、ヨリカ
日本入ぬ河いし心善く日本人を治し、暇飲ひし舟暇
きし心よ又カワト云ぬ河宿の事少く暇きし心善
ちハ、シシテの命は清く頼り居る何連の命は清
暇出し心よ又カワト云ぬ河宿の事少く暇きし心善
早速乙吉方へ取返し、出し居りし時乙吉方へ系り書物
の出し居りし時乙吉方へ怒り船將も云へき者一旦暇出
し居り又返り告ぐの事は何度かん使者へも是れ果、
使の物取居りし時、船將も云へき者三年四年方切
舟し乙吉方へ取返し、船將も云へき者三年四年方切
書物に系りし時、は河宿の五板も云へき者、
使者乙吉方へ取返し、河宿の五板も云へき者、
有半も書物に系りし時、は河宿の五板も云へき者、
連銭取居りし命は清く頼り居る何連の命は清
きは昔帰國と書くし乙吉方へ利七号も云へき者、
船も日限定し居りし時、は河宿の五板も云へき者、
何事、成るも取居りし命は清く頼り居る何連の命は清
早朝と書物に系りし時、は河宿の五板も云へき者、
の者来りし乙吉方へ怒り船將も云へき者、
船取の命也と云へき者、云へき者、
舟取、船に六人出居りし時、は河宿の五板も云へき者、

師國船のり出下使義瑞〜人列改む于時
同流の岩吉先達百名落以書並心巧意を彼國船
乱の中方も行いつく渡海を事討難〜身之食利
毒を恐く〜終く者病む魚を事討難〜師國船
忠なり〜いつ些常事は病む人の事討難同約より
早速船主入造〜船主官造者故使人嗜
味を喜〜徹〜船主の十白頭二人成持り猶も
得造〜命次十日中り〜上海〜病
死せ〜台船主より〜先河〜去ま〜皆
帰帆の節〜役人彼の番頭二人沈〜來り百平の
刑〜

順七今年唐も同十日船主存り同十二日上海と出
順八同日薩州〜
多船と般廿七日長崎入港〜
揚摩の女と船同七月六日病死〜又長崎〜
薩州の京助病死〜大音寺〜
漂流人の衆〜船主早〜二日〜長崎入港
長崎〜
時揚摩〜
予時船頭〜
しりとは揚進〜
緒後〜
かとは何〜
利助〜

同流船人石名

一 播州加古郡宮西村

アラブイイノ船

船頭 萬丸

一 播州神戸

橋頭 長助

一 同国西中庄村

橋頭 浅太郎

一 同国東中庄村

橋頭 甚八

一 同国同所

カニナシモシカアメリカ
運船

船頭 沼田

一 同国神戸上ノ庄

船頭 成松

一 播州東中庄村

船頭 甚八

一 播州中庄

長崎ノ船

船頭 京助

一 播州中庄

船頭 徳三郎

一 同国宮西村

船頭沖ノ船

船頭 吉右衛門

一 伊豫若木村

船頭 氏丸

一 紀州塩津

台浦ノ船

船頭 岩右

一 播州採ノ浦

カニナシモシカアメリカ
運船

船頭 龜丸

一 同国瀬戸白浜

カニナシモシカアメリカ
運船

船頭 仙太郎

一 播州東中庄村

カニナシモシカアメリカ
運船

船頭 吉右衛門

一 伯州河村郡長瀬村

同船三船

船頭 利七

長瀬村社七澤流諸後卷

雑話

奥多昌忠記

一 カラワボウナイサンフラレシユト云々本々キレシの次
 一 城落以然々其地流拓の事也此をイキリス
 一 人遠くより大車載以て七ヶ沢地地道成造り城申り
 一 昔ハ入敵の後ト廻り忍考り取而分銃炮と兵を責む
 一 城中の事々移りて傳りて其地次第大和政治列り
 一 一カ下りし物英道七百里の地と別版云々昌忠梅をりて其以イキリス船相列南より新
 一 一カ下りし物源々人の伝存しなり水子一カ下りし物行地合談一カ下りし物

カワボウナイ

カラワボウナイと云々

元年申歲の嘗て初く尚時世界東一く金山なりしとき
具堅横四指里より古里の上より金く採りて其半を
底へりて入るや

昌忠堪より永永二年酉、歲末船せし和蘭紀
の甲必丹の公上申下道頭小アメリカに和政治列のあり
メキレエ地階屬波よ二ーラカフキルニ一の満ちてく
ち中地も僅の前く移る會談出く少旨や
せも是をせん是成思えは甲必丹、言しは
利セう言ひ伝せり

此地今と出所の野な満ちりり其く今成路其地また
和政治列の使来りり其地ちゆ令成意く買取
又其地を意く定法の運ぶ成取く海に何の金のや
く出つ成取の外城地知の者成く其地は其地は家
成石造り利本造りり或ち他部より来りり其家
根ち牛の皮成後四指長根固たりり何村猶康
運りり何利其合とる多のりよあたはは家名は
お捨島ん為く毎釣糸堀より者悪多船りり
く我一甲く行んとりり其方の競馬のそく
編りり其地ちをりり路成りりきて通す
事りり其山を後二つ小別せりり入海のわのち
八十里中亦有りり其金の林原ふサクラマシタイと
云村何れとて家教サレパラシエの三ふ一甲の亦何や
一サレ下ランシコ小半成教りり賣るは四折有城たり
四五丁放り帯りり其地ちをりり同名路方りり多く賣る

皇國と河の異成事あり。其の儀より進年人任初市
たれを大木有やと宣し掃く事大木も有とても掃く
大木も有し一草木も有し般の儀せ況任人せり事なり
の儀

一 彼のサレヲラレシ、事あり

皇國と國帝なる事、事得たり事あり事あり事あり
いふ事と國と事あり事あり事あり事あり事あり
とあり事あり事あり事あり事あり事あり事あり
事あり事あり事あり事あり事あり事あり事あり

一 彼の坊より居る時役人よりいさふ事あり事あり事あり

事あり事あり事あり事あり事あり事あり事あり
事あり事あり事あり事あり事あり事あり事あり
事あり事あり事あり事あり事あり事あり事あり
事あり事あり事あり事あり事あり事あり事あり

一 彼の古の事あり事あり事あり事あり事あり事あり

事あり事あり事あり事あり事あり事あり事あり
事あり事あり事あり事あり事あり事あり事あり
事あり事あり事あり事あり事あり事あり事あり
事あり事あり事あり事あり事あり事あり事あり

一 彼の人の内思ひし事あり事あり事あり事あり事あり

事あり事あり事あり事あり事あり事あり事あり
事あり事あり事あり事あり事あり事あり事あり
事あり事あり事あり事あり事あり事あり事あり
事あり事あり事あり事あり事あり事あり事あり

海をふかきく重目し一、と云 但一限馬と

一 海に地へ其家時人の歌うふまはオウレサナア。ロニラ。
ワイフ。クライ。カラフホウナイ。ナシラレシヤウシウエーと云い
と地をオウレウサナアと云 秘船せしと云 ロシナウと云
沖を漂泊せし成助多ふと云 オウフオウフと云 中房
のオウクライと云 泣く辰のオウカラフホウナイハ其地名ジ
ヤフポシと云 日おれしと云 一作の心と云 日本人の難船
遊ふと云 ~~オウ~~ フラシシコオ助く 秘船を其母
房を所泣く辰のオウと云 この金山オウシラレシハ
オ助く 泣く辰のオウと云 事ごとと云

一 花盛郷とカリルニヤハ同郷の中を遊ぶと云 大山郷
西郷の二道船道と云 船のオウと云 船のオウと云 船のオウと云
と云 更道通源と云 船のオウと云 船のオウと云 船のオウと云

一 アメリカありと云 煙草成清葉の根は清葉と云 葎と云
者多し又老弱と云 火成生吸りて利きせりと云 事ごとと云

一 焼く焼く 主若く成ありと云 其巻成り終ると云 運道最良也
アメリカありと云 人のオウ 盗成清葉と云 物と云 賣る者あり 酒流

人も多し 物と云 昔のオウと云 其は地を水 扇のオウと云
目境の地と云 箱と云 其物と云 と云 利人成前と云 玉り安
の地と云 附洞板のオウと云 麻と云 成玉の海と云 其は玉り
物と云 其海と云 洞板と云 又運成と云 物と云 時板と云 其物と云
塞きと云 其洞板と云 其火と云 何物と云 又其の物と云 何物
と云 其物と云 其境と云 其物と云 其物と云 其物と云 其物と云

阿利法の魚舟の群れ後り南の之波國のくもと銘
 小染淡若く時と中年と有たり時と成福と有たり
 有るは又船宗も法者も主婦も身も取つてくも西極も
 有るは奇如事と有りて号すと云ふは彼者の云一
 才拙我より身の居るは他授と有りて云ふらりや

昌忠梅より小倭漢三才圖會より去らちの僧より漢
 鏡より佛の傳説より今れは有りて是れは是れ也
 精々也

一 亞墨利加之歌 羅巴の村物より人種より万夏西海
 也故より一年三百六十五日 昌忠梅より小西洋の王手有りて一月 毎レ二月の古
 八日と餘月と云ふ或は二日阿利法と云ふ月の後漢

一 曆有と云ふ或は夜より十五夜満月と有と地相云月なり
 くる五穀成種熟と有り悪くかんとも有り年の早晩
 一 隨山昔年より十日の前後より所由かへりて急な
 くと詔りぬ

一 アメリカ祝日 ホーテイ八四日 日ホーテイジュウライと云七月四日 ホーテイ八四日
七月の事 十日ハ先年アメリカ人イキリスと戦ハ勝リイキ
 リス人の仕屋成離と南西のこくをとりては日
 ちよん收ふ事かきイキリス人同船中者時を苦す願
 くと云り云利

- 一 アメリカ
- 正月ヲ セニワライ
 - 二月ヲ ヘブライ
 - 三月ヲ マトク
 - 四月ヲ エーブライ
 - 五月ヲ メイ
 - 六月ヲ ジュン

七月ヲジエウライ 八月ヲオクステ 九月ヲヤキテベ
十月ヲオクトベ 十一月ヲノウベベ 十二月ヲリイセベ
垂仁天皇廿年癸亥ウ今年安政二年卯ニ至ク
千八百廿五年也 西洋諸國皆汝教を採用シテ年
号をナシ

昌忠梅ト小食法授んト五穀種藝の法又火食の
法衣履法授んトを傍續の法又織縫の法トと教
ふらかりされト活利トは利セトちト私業トと云り
ぬヤスト宗門後ト別トハ宗トとナリト云利結トハヤス
ち新迦杯の類ト利

梅トより、白澤ト宗有坤輿圖識ト裁トよりト西ト哈
臨臨ト又ト釋ト西ト梅ト西ト回トちト邪ト佛トヲト尊ト信トをト云ト此ト滿ト南
法の属トよりト回トとト云

一切支丹宗門の徒トちト十ト文ト字トの本ト成トをト云トと云トちト何トナリ
況ト也トとト昇トりト其トちト礎トの本トナトリト云トリト其ト祖ト師トヤトスト礎ト
カト利ト由ト其ト孔ト教ト光ト利ト放トちトをト行トはト滿ト人トもト其ト滿トの
佛トとトはト尊ト信トありト也ト佛トとト男トちト子ト首トりト入ト聖ト一
體ト目ト也ト廿ト胸ト十ト文ト字ト此ト入ト聖ト也トのトをト彼ト切ト支ト丹トの
門ト徒ト其ト祖ト師トヤトスト滿ト民トのト為ト其ト身ト礎ト少トくト也
りトとト云トなトれト其ト門ト徒トちトあトくト骨ト身ト成ト也トとト云ト今
世界ト中トはト意トけトなトりト入トがト祖ト師トのト教ト恩トと
ちトくト法トのト為トちト私ト願トとト云トと云トりト
昌忠ト葉トとトはト傳ト是ト也トと云ト邪ト禰ト宗ト門トハト良トヤトストヤトん

而マスる回玉をくふと河くくはるれ親増日蓮の
頼く頼り一白九定のは建たは民の女はくるとく
く利根アメリ其外ヤウロウブなれ切と母ハ河
奇妙不思議の事なきとを能く性者ホルトカル
ウ将来くく耶嚙宗と云る其を尊むる神代
テイウス云テイウストは天主の密名也天主也
我國小徳ある所の

天御中主尊成指をとはは邪神ト云つたは
根本ヤスる建より而も天御成多と天道は
石の教がらん去は後よを八宗九宗と謂はる
とを濫道と知るなりは彼等のホルトカ
ル事也其の事也其の事也其の事也
と云思ふは寸ンテイとヤス母子の首像也
而其家に入者にはサレスバルと喝と奇妙不思議

成見せしと云は彼の誓願也 西のふとス通音アラレ西。アラニ面を推して 四の
邪法也其の事也其の事也其の事也
有るの事也其の事也其の事也其の事也
入者も先母の事也其の事也其の事也
庫の諸君見たり牛の形は馬の形は
鳩の形は皆人勢と此は説く日蓮宗の
と奉徳くく来りて其の事也其の事也
よせりく先七日法のこと奉徳くく来りて
と云良教のことも勸諭く玉りては又彼は清成
見たり其の事也其の事也其の事也其の事也

来るなりし七日日く小波瀾よりなる高貴の
端り極るぬ海を瓔珞をひける帝王の難い
極るは油衣のの伝心く功力極る海世必
此の帝位より出る事くさしなりしと示るるんせ
何連も奇抄の事かかりし更よ我成也る信心
營園くしりや是れのみ云所く生樂くしり皆我成
の海より極るさふち何んは是れを兼く云何極る極
と免る瓔珞極るの人成極るめたり瓔珞極る極る
其生樂成見せらる切め成思成の事かきせ
と見らるた之邪法やせよた極る奇抄の出来
よりとの多くは回上極る情とよの事と知る
極るく切支丹の来伝は神天主もせよ正道もせよ
皇國を尊き神の在る極る高國の中極る
勝る良

天御中主を尊く御正統成文成りよ
天皇公卿遠く古氏小わくと其古と神
流なり何其い極る我執の道学の八百神
い極る祈り極る神不自中心なり何極る
極の神は名なりよ及んや
新長安古四のりた進平イキリスアメリカナとカ
極るは海流布せんとも心あるなり海内の
人再証なり明らるるの極るく新うと
若し書然見極る極る極る性昔極る感願く刑
殺仕り者古八万人よ

一 琉球よりイキリス弘法使者 是切支丹成
は極る極る 我医者く社を
上陸させ居る中極る琉球 本邦へ使く極る極る

早く切らるゝとあるは切らるゝ物と云はれ地球を邪と
悟らるゝに毎合とのちと云ふ

一 朝鮮もイギリスと法法使に上陸をせしむるは
英穀もまたこれ又強迫の場と云ふ又英穀引渡は
其極威の場と云ふ其ほちの必出は此と云ふ

一 イギリスアメリカ人を鬼角自ら自ら成るる守成
力の入仕るる皆火象 輪轉の事あり他起るるは板
火象、珠物物とも火象 羅紗の織小箱は織入
其箱いづくも完有る穴の穴の糸酒は出づ
其けを火象の具箱自治の糸と成るる威天の幅
物織んはかりたる其糸の切取は織成織小火象
の威天の糸織成の幅織成織小火象
此の糸の世法は其の糸と云ふ

一 火車を其通道路別は作らざるは海軍と

一 白王國の妙き能く田畑多き、國土を不可成んと云ふ

一 アタリカハ 皇國の如く捲口の習習とせられ
好く船中ありしは世の報報の糸織の妙き物成り
捲り卷くは互に実合の事あり 報練を之と云ふ故に
卷くは実合の事あり 四を板少くは実報を之と云ふ
譯成の内は船方と云ふは船の事あり 捲り卷くは
の意成案の事あり 眼と云ふは向ふ事 不能は眼
民衆の彼の奴成捲り穿入蔽しは事あり 此七
馬の右取捲りは其の道境を令其の人の印
此の行は船方の人と云ふは此の道境の右の此方と云ふ

思ふに世山西人の説く海面は毎一歩一尺八寸四百尺
 と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺
 と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺
 の測量は其相直立二十万尺と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺
 一 台浦を異船に入港する所は其相直立二十万尺と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺
 と思ふに其相直立二十万尺と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺
 或は凡て此の如くは其相直立二十万尺と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺
 延ぶに其相直立二十万尺と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺
 百二十万尺と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺
 言はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺

一 唐山の如くは其相直立二十万尺と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺
 と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺
 甲かくは其相直立二十万尺と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺
 或は凡て此の如くは其相直立二十万尺と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺
 初生の如くは其相直立二十万尺と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺
 の活可なり

一 唐山の如くは其相直立二十万尺と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺
 長崎の人松平是茂と云者其相直立二十万尺と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺
 時々出づる如くは其相直立二十万尺と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺
 長崎の如くは其相直立二十万尺と云はれよ此方ゆく不二の測量は其相直立二十万尺

唐を唐山とて國號を國帝と稱し國羽死し
後國皇後包つたりし時出果出く救ひしなり也
唐人の云人を思はば其出靈を出れ未嘗く牛馬
鶏犬の出果出たり成字次死し其出果出たりと云
雙をさきと名とて也

一 唐山とて阿浮陀を曰わし利未と云ふと云
一 唐山とて佛の年忌とて小の親族其墓前集り
く常法の儀若くは高弟小泣とて能はる
三日三夜も泣居ると利七とて七若が家子居り時其
迎過る墓所有りは度見しと云り

一 唐山とて阿浮陀の害分以て消れと云り一度阿浮陀

此の唐山は昔の唐の都を指すなり其害分は唐の都を指すなり其害分は唐の都を指すなり

來る事邊一也也也腹系とて後其害分免く其害分
阿浮陀も高金の中とて金を取らば苦き藥成
吞んた利とて其害の速なりなりと云り今も唐の地
には庄院とて因流の肥後の村に阿浮陀の爲に
死せりと云ん阿浮陀指頭中にも價百文位好む者ハ
一日小口文成費とて利腹轉ひ居く油火を吸り
其味を試しこれをお知を薫むいと能事のとて英夷
其智慧甚く保く根性ありし國あり阿浮
の如きも己をわし不長負ひ成るなり
メ子う過す長虫多くと云り不蟻蛇多きやと云り
香水申し唐の國とて静く成る日水西成実記く唐の

しるべき見しと夜度と云此を蛟龍を利大寸巖中有
 やと閉す此位と描くるを示すなり八子中と見しとる虚
 薩成好む者なりは先おたれ人華位に立句斗しと有ん
 たりと云賜き此と見しと利七。偽しと成福は魚に
 さく波の地とく丈成也とく其月も河中より活を
 たりと也

一 天竺人を甚く佛念懐きよめを此を彼身と嘆嘆と
 すとすと思ひ若人は怒恨りの時々の業少く勝るとさ
 ともとの奥山より入人眼すとすとすと付くとすと付くと付
 化すと此と成ると此と其悟のありありと念致すと又山より入
 る人目よりのぬすりと付くと付くと付くと付くと又元の人成を

福能の海雲の峰の精の光の心のと人の心
 人は驚くべき直上人よみ人の心の中極善火の心

は是し其成なりと思ふよ又都の煙々元末會所
 と進く其性を通ひ同む感と地と有なり

一 天竺の心とく若き女長史此位時と火葉のくく中房
 正と火中不能入狗死せく中心と山河のくく身と今位
 其風俗の中にも此狗のくく身はけくとと云すなり此
 若く女河の女狗死せくとく其女子懸者なりなり
 止ん事成深きなりとく梅とく賢まを画とくなり

一 天竺の女と思ひ元氣真の情をくく少や七也の四層と
 七也の遠く河更有り必し通ひなりかや時々の河なり
 七也の来年と日おのりて云ば吾身も後の河なりは

君達も遠くやと云利 澤長何とて再い遠く通さる
思ふも一時の縁成歴のんと作は又さるるやと云
道は狭いしとて天竺の吐くも替へるや西陽に火く
とちん日本人と天竺人と夫婦おぬく唐山は任と
ゆゑさ縁と利

一 象収象成を其人告り方とたつ神方時を象具象成象
ふ事不空成り或は時成先も言者時を地く榮れんと
とまても動り象収色くさび云とまは笑方く描成
出方とわや高れをう義理と通つと見えり利七七小
ささ象を男清くすと云り

喜葉めく造れりハレと云カハ弱く具性成方の
焼耐くも烈くく信り一二分中つと金中成加く
一杯とありて春とあり

一 岩若くつ者寧波のわけく毒海くく居く或時若
河州く祝抱せんてた大物に次く物くく是く
食物役薬庫者成攻くさ庫庫水入退くくちん
と云昔人化くは改めんく 玻璃の院家と大
燈く船底く入く薬庫成く改めんく何く
河由南ちん薬く火物り船解散葉也百人中一人も
強く深死散さく河成ちん方知くは船具船物
多目と道に二里余のちんとおく取と冠散ると
火燒れ当る魚さるゆゆ 是利せらマカウハの言
中希の事く

一 唐山の年号道光と十九年より果 嘉慶三年戊戌
 八、レ、元年と我々建の號新明と天徳と号するを
昌忠其元年は洋史に常々云ふ
嘉慶二年四年を云ふ

一 天竺より西の火成大切より圓く天竺人の煙草の火信
 せし云々も中々おきん若傷する火の煙がしきく踏踏し
 たりと云ふ時お怒りし力闘し及ぶと云り修し地く隣
 ありし火成切し火成り失火ししを焼くもお清事
 せ火布ら焼滅ししを燃有れを投入し皆焼を火とわ
 前より火成大切より火成り失火ししを焼くもお清事
 失火ししを布らく燃事と云

一 唐山より好七号芝居見ふりしと云其飛煙いしとあり
漢書の漢の意 昔明の風し失火は古の飛煙の言
たり又漢方なり 漢海諸港をなす 只二人が東せり
 者舞者お出く高声より上云の事の話を通し
 されとも舞振る面白くしと云

香港より行市への道法

一 香港ハ七里迎りの湯かゝ唐東交新の事僅々了す
南時イキリス支配あり 阿片乱りイキリスは
阿片の和名をせり アメリガ商館あり
 故より此所は根とくあり爲し一通りマカウハ此の
 北十里小迎し金星門八年の方北十里中 黃埔を申す
五千里川中の鴻 唐東城は
五千里川中の鴻 厦門ハ廿の方三百里 香港
 の向ふ合也上海ハ七百里サンハイの揚子江は南より十重
 リサレふいり又利又枝川は渡り事ナ七里の町あり

江南首のノック城（北地阿片の地） 上海より台湾と日本
 道法北七里と云ふ台湾のヒンワウへ七里

一 子此春アメリカの送る由一軍艦カラフホウナイ
 船廻り等々一々船中の者ハ中にも及次士人とも名残成り
 樽々の送物全段号次送る又船中ハ船長氏等々の
 船中ハ船長一々一船を廻す一船を廻す
 一 船を廻す一船を廻す 是市云市の築り

一 イキリスの香港より四月の通ふ船あり道中
 常々西紅海の船二艘地中海の西紅海へ對する二
 艘ありイキリスの香港より對する二艘あり

アメリカカゴ

一	クワン	ニ	チ	千ヨウ	三	ヲ	ワルイ	四	ヲ	ホウワ	
五	ヲ	フワイ	六	ヲ	セキ	七	ヲ	サロ	ハ	ヲ	アイ
九	ヲ	十	イ	十	ヲ	テ	レ	十一	ヲ	ラ	ビ
十二	ヲ	十	ウ	テ	レ	十	五	ヲ	ヘ	テ	シ
十七	ヲ	サ	ヒ	テ	レ	十八	ヲ	ア	イ	テ	レ
廿四	ヲ	テ	レ	テ	レ	廿一	ヲ	テ	レ	テ	レ
四十	ヲ	ホ	ウ	テ	レ	廿五	ヲ	テ	レ	テ	レ
八十	ヲ	ア	イ	テ	レ	卅十	ヲ	ヘ	テ	レ	テ
百	ヲ	メ	レ	レ	九十	ヲ	十	イ	テ	レ	百
北	ヲ	ウ	ス	テ	東	ヲ	イ	ス	テ	南	ヲ
											西
											カ
											イ
											ス
											テ

十一と九連の船成る云ナラ
 後ノ至る船成る云ナラ

以下是、做スベシ

ニエウロツラハ船長
 ムラテネウハ船長

日ヲ ヒサシ 月ヲ モウメ 一星ヲ シタアシ 一年ヲ グワシル

一月ヲ クワシテ 一日ヲ グワシテ 一夜 グワシテ 朝 モウ子シ

昼 テエ 夜 ナイテ 晚 イブ子シ 水 オワテ

塩水 オホクワ 湯 ハツオワテ 山 マムス 川 フレイシカ
ワラヒライシ

石 ストン 砂 スオン 木 ステキン 家 ハウス

戸 トウ 開 オウチウ 関 シヤク 臺 キヤライ

錠 キイ 平地 ピライシ 磯 ロクス 寺 チヤキウ

見 ミ 見 ミ 女 メ 父 フ 母 マ

男 オ 女 メ 兄 ケ 弟 ケ 子 コ 女 メ

苗 ヘエ 髪 ヘ 目 メ 鼻 ノ

雨 アメ 風 カゼ 歌 ウタ 歌 ウタ 昨日 キノ 昨日 キノ

日本 ニッポン 金 カネ 黄金 オウゴン 銀 ギン

銅 ドウ 僧 ソウ 医師 イシ 大工 ダイク

侍 シ 圓名 エンナ 水主 スイヌシ 下侍 ゲシ

老 ラウ 若人 ニヤウジン 書 シヤ 人 ニン

足 ソク 馬 ウマ 牛 ウシ 犬 イヌ

猫 ネコ 熊 クマ 豚 ブタ 鳥 トリ

鳩 トビ 魚 イサナ 雞 トリ 蟹 カニ

蜜 ミツ 夫 ウツ 衣履 イロ 徳利 トクリ

美 ミ 醜 シウ 酒 サケ 油 アブ 海 ウミ

酥 ソ 酒 サケ 芋 イモ 菜 サイ

酥 ソ 酒 サケ 芋 イモ 菜 サイ

酥 ソ 酒 サケ 芋 イモ 菜 サイ

酥 ソ 酒 サケ 芋 イモ 菜 サイ

茶	茶	紙	紙	蘇	箱	刺刀	頭巾	釵付	火	船	高船	橋
ティー	紙	紙	紙	ヒライテ	カレ	ナイツル	キヤツフ	マスケチ	スアマ	シゴク	マーチン	アツ
長者	着物	米	手桶	ライレ	ハケチ	鏡	短履	玉	灯火	船	鯨船	碇
マアテ	シオツ	ライレ	ハケチ	バテ	針	セジル	シウス	シヤカ	ライロ	ハウケ	シライロ	アツカラ
食物	鉄	麦	ニイリ		竹	鉄炮	鉄炮	火薬	鐵炮	火輪船	帆	繩
スト	シヤカ				マシブ	コレズ	コレズ	シガツ	エシ	茶	セイル	コツマシ
筆	砂糖	豆	庖丁		羅紗	石火矢	醫藥		梶	軍船	桁	鎖
ペシ	シヨカ	ベニ	ナイフ		フウワ	キツラ	メルシ		ラテ	マイウ	マリー	キエ

白 ホイテ 黒 フラアケ 赤 ライテ 路 ニイテ
 上 下 揚 船揚 フロア
 初 面 ハレダ 其 答 フウラ 勝負 ヒキ
 歩 行 キアツ 芸 カメヤ 虐言 ライ 返答 ヲツサイ
 だ 下 遊 カラシ 世の ホール 悪イ マシシ
 先 コト 来年 マシシ 止 シヤハヤ
 時 鐘 ベール 一時 クシラアリ 九 登夜 戌九 四時 止
 九 登夜 戌九 四時 止

此の多く言を多く首へ、なされし得るは、
 利七といふ、おわすま、若成、後園、この物、
 志、あまは、おわすま、若成、後園、
 志、あまは、おわすま、若成、後園、

推量一々河のそとにぬしつり又去る事十六
有はまきと江島海岸の南の村をれたの
帰る成る一有並の有別段の河にぬる
成備うの

乙吉の事

本名乙吉は流石に流石と昔流石に成
るは乙吉とて一思ふ也

乙吉の事一歳かゝ十六の時天保元年乙吉は
りくわの村の道と吹流と海と漂泊と事
高河川流石に流石と昔流石に成るは乙吉と
本名乙吉は流石に流石と昔流石に成るは乙吉と
島へ流石に流石と昔流石に成るは乙吉と
りくわの村の道と吹流と海と漂泊と事
物も不義の事い取わらぬに所より通つた成る
りくわの村の道と吹流と海と漂泊と事
火出さんとて流石に流石と昔流石に成るは乙吉と
取られを代りて相も同とて一居る者勝つた成る

か海やうく潮く火谷山、採集月何くせ其海河の皮
ウ大キなる、魚やうりあり、年改易せしと世は、此家の種
一と村一と採くく大キ、成長冠心内と古間と可くよ
仕切食物者、黄書と云事、少く、塩青、干、魚、油、肉、皮
火くく焼、常食とを、海に、舟、舟、舟の、物、イ、キ、リ、ス、り
海、り、魚、油、こ、是、は、食、物、成、入、食、り、う、或、時、は、小、使、食
仕、又、又、時、は、顔、成、行、い、い、と、其、事、を、く、他、思、事、の
出、事、は、今、キ、リ、ス、人、皮、は、此、交、易、の、為、ノ、二、年、始、り、儀、人
其、事、の、事、く、く、此、事、小、一、年、半、市、向、も、も、同、イ、キ、リ、ス
船、二、艘、系、人、英、人、見、馴、ぬ、人、物、と、思、く、此、の、事、の、由、り、也
日、お、人、の、旨、切、語、利、も、は、英、人、連、呼、ん、と、古、人、の、在
難、航、船、の、業、を、海、り、マ、カ、ウ、の、魚、を、採、集、す、る、事、也
其、漂、流、年、り、り、七、年、目、小、南、り、く、久、里、濱、沖、連
東、流、事、く、く、此、事、揚、く、く、な、り、く、揚、利、今、も、イ、キ、リ
ス、人、の、事、の、没、成、勤、く、上、海、の、店、を、別、南、北、年
其、事、を、く、く、と、云、く、

口松の事 名も市名中、産信記せ、摘遺記

一 肥前國湯原口津村の口松を、齋田所村の御自國
川原村の船頭店起り、船り、人、多、く、天保五年秋
の浦、あ、や、琉、球、芋、成、精、く、沖、合、く、成、美、の、風、く、
吹、流、さ、と、西、月、半、洋、中、の、漂、ひ、へ、レ、ハ、ン、の、や、島、の、揚、
村、り、り、揚、人、成、れ、と、又、中、後、業、の、事、を、く、く、成、流、

家々連綿の食肉を喰食する有馬号之其湯能
國々半島にあらし衣類も其方が出し若し
沙那を以て事なりとも一單に吾物之歸國故に其
手まぬく見せしめは鴻人胸にさるり十文字形
の字状是即四毒指く是成物に爲る道に五段
辨るる付控至下と其由一帯一帯に其大
性いる体く何れ大木の砂史降る廻りて成指
題そ如成化り道海程身波何をも事と聚る
此處より出島船を布控付何をも一帯一帯
ころころいりたる大樽お奇其大木成何倒し能
程り切角座り船の秋く大く物立場なき
下上立致く又六月梅が来りて其時
成業を二回に成地通るも其時其島海に
鳴通るも其を又鳴るるる船有るも其時
相まきメ子り府より其世所其家の日本人の
人々姓名より迎年イヌヤヤ人攻取く以米日
本へ建り唐造の舟も有る成イヌヤヤ人色に
后とせし由に其時日本人の種姓名を山奥に有
其其島に其豆罎イヌヤヤ船に其つから
まき道に其れ誰り渡るも其まきなく彼船
歸りしは其大に其惑く其河に其ら其
其れ其乙者親方是成見付乙者日本人は其
其れ其出く見せしめ云乙者其出見せしめ其
日本体は其互に其是其いり其親方其是

とも役人云々之事ありて日本の事とては其様也
但世を以て其の統と布とを以て治と政とを以て
免し難し其の運死を以て其の運死を以て其の運死を以て
河内川地物と通商と政とを以て其の運死を以て
滞留の所短と便取ありて唐に倣ひて其の運死を以て
史と列と各港とて其の運死を以て其の運死を以て
海の乙吉方とて其の運死を以て其の運死を以て
其の運死を以て其の運死を以て其の運死を以て
利と其の運死を以て其の運死を以て其の運死を以て
せんともありて其の運死を以て其の運死を以て
其の運死を以て其の運死を以て其の運死を以て

安政二年卯暮春再計之

昌忠曰世俗物の奇致成ハント云同偈教也千ヨウ
と云々いぬりしうりがりイキリス語ト一トクフ
と云々千ヨウと云是成以てありて博奕ト千ヨウ
かレ成と云ハ語りてハト云ナランカレタの如き
も南蛮のりり傳習せしと云々世界のいふと詳
かちて相つたれり南海の舟來り船を以て其の運死を以て
と云々也せしと云南洋人ありて有るは其の異國より
傳來せしと云々也新海の氷世の頁ひと云々有るは
其の龜嶺と云々也天下の民其の異國より來りて

かき 是皆西海の天竺の海濱より有る瘡癩をアノ
リカノ利起るといふ鬼の角を城より取るとの益の
利と云ふ其毒かく其数かき 害有る事と其害大
かき 其数多し形は西洋字をよく好む人々を
かき 其毒を以て思ひて明く其毒を心より治す也

利七漂流談異聞秘傳

奥多昌志記

一 蒸氣船を長江に有る也其速疾者一は船の原
二 百四十里と云ふ也又小船は舟の車輪の齒牙
く打碎くべく敵船かき 遠きと其風浪の福が成程
時々熱湯吐き起ると大間と遠く其植草少く作
先より今北波中川甚く其毒を起りて右の左の上下
下は鬼の角を射ると云ふ事一は軍船の舟を
かき 其毒を以て思ひて明く其毒を心より治す也
かき 其毒を以て思ひて明く其毒を心より治す也
かき 其毒を以て思ひて明く其毒を心より治す也

順風ありて、蒸米を用ひて、水車しく、水をお
 せりて、逆風ありて、水車をくへりて、風強き時は、水車
 若く蒸米の代りて、水筒一丸中の水は、水車に其水破
 碎して、水船に、石炭を積み、夜具は、水筒の用心を
 はり、水と石炭の時、水車は、水筒の用心を、水車
 水筒の水も、水車に、水筒の水も、水筒の水も、水筒の
 水筒の水も、水筒の水も、水筒の水も、水筒の水も、水筒の

一 蒸米の湯氣風を、水筒の中に入れて、水筒の水も、水筒の
 水筒の水も、水筒の水も、水筒の水も、水筒の水も、水筒の
 水筒の水も、水筒の水も、水筒の水も、水筒の水も、水筒の

一 蒸米の湯氣風を、水筒の中に入れて、水筒の水も、水筒の
 水筒の水も、水筒の水も、水筒の水も、水筒の水も、水筒の
 水筒の水も、水筒の水も、水筒の水も、水筒の水も、水筒の

一 凡そ水筒の水筒の水筒の水筒の水筒の水筒の水筒の水筒の
 水筒の水も、水筒の水も、水筒の水も、水筒の水も、水筒の
 水筒の水も、水筒の水も、水筒の水も、水筒の水も、水筒の
 水筒の水も、水筒の水も、水筒の水も、水筒の水も、水筒の

知りしなり

一 アメリカ花盛那 十の王座ありて是也なり 十六朝の
豪家一任四年に渡りて付揚りしなり 英詰剛 小舟に

帝号を免許せしむるを免許せしむる イキリス 未免何國

十のりて帝國一ヶ所居候せしむる帝号を授せんとす

一 アメリカ人 即國小通交候物なり行てしむる 薩州

及びしむる也とす 和蘭陀 の小通高免れり國威の

前より一の出來りて可成り見せんとす イキリス 昌也

梅も不餘りし事なり 且利 又世界に比るる國なり

一 薩州 の事なり 日 の和國の事 昌也 の事 依洞 平國洞は薩州に在り
揚子江の事なり

備後 昌也 等 昌也 とは 中 へ 昌也 とす 昌也 といふ

昌也 といふ 昌也 といふ 昌也 といふ 昌也 といふ

の事 イキリス の帝 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事

の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事

か 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事

一 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事

の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事

の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事

の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事

の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事

一 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事

の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事

の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事

又 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事 昌也 の事

國臣公殺罪を事申す。國中蜂起多し。活
かす。予時如主出。天子刑伐免。且事成家。の
し。況ん。又切成。以。人。成。殺。事。禁。於。亦。又。宗。に
入。相。お。又。成。以。く。人。成。殺。事。禁。於。亦。又。宗。に
よ。行。く。く。國。さ。者。ハ。銃。炮。成。以。く。打。殺。す。り。格。と。ん
性。平。ル。ト。コ。ル。人。の。彼。宗。と。入。者。人。ト。切。成。成。以。く。自。殺。を。事。申。す。事。と。教。へ。る。皇。國。人。等。自。國。政。治。の。意。を。

一 香港、阿片乱以東都くイキリスの取願と成るも是れ此
有。所の佛法清く。不。談。切。支。丹。と。せ。り。或。や。其。信。兵
成。る。以。法。を。世。孫。と。男。を。子。首。と。入。皇。一。廿。七。胸。十。文字
成。入。七。日。り。の。祝。日。小。説。法。を。事。申。す。萬。長。イ。キ。リ。ス
國。風。と。せん。と。事。級。を。れ。と。彼。子。と。く。城。士。中。り。其。信。兵
一 湯人の勢。の。事。を。湯。人。の。友。心。を
系。を。の。形。を。ん。と。云。い。

一 アメリカ 皇國と事ん。年。不。乳。事。こと。わ。云
吾。和。蘭。院。人。曰。日本は異國。お。拂。の。敵。法。を。れ。と。才。
通。音。思。い。し。と。ん。行。ハ。忽。打。拂。と。ん。或。ハ。攻。撃。不。及。少。た
神。國。を。れ。と。神。威。也。う。也。お。拂。と。ん。行。を。付。世。界。の
多。い。切。成。也。不。行。不。志。ら。ん。と。屢。の。巻。を。と。ん。彼。ハ。交。易
相。叶。り。蘭。人。ハ。為。ら。れ。不。利。有。れ。也。た。も。有。り。と。思。ふ。也。
日本。渡。海。と。云。防。と。晒。し。来。り。船。と。又。船。系。未。船。方。
今年。と。ん。と。云。殺。事。成。也。と。ん。格。と。ん。と。ハ。ル。リ。云。
日本。神。國。と。ん。と。太平。久。矣。武。威。襄。た。れ。と。神。威。也。
右。れ。と。ん。と。者。と。ん。何。連。一。意。也。と。ん。誠。ん。と。ん。と。事。申。す。
軍。船。十。二。船。と。四。千。人。等。組。隊。續。り。た。り。と。ん。と。彼。船。人。と。

増え去るに物ありて知られり思ひ成りて未だ所よ
浦質の應對少くも似ぬ寛宥の事かゝりし
の島は世界に第一といふ日本記事といふは万国の事
と見ざる事あり新聞紙とありて僅の事と増物と
万国互に送つる事あり
皇國の事何れも知らざるは彼らに船方といふは皆雇
人なれを僅の所浅く昔より未だ舟内右矢火の所より
舟ぬき揚げて出たり拂ふ事あり是は雇人の僅の海あり
雇もして無益の命を何れとせん連も獲りしは
定めん事あり可謂無念

利云右様所寛宥と知るは吾其船なり
はは法國の法費も何れもせん
定めて義系なり

利七長崎より來りて醫者の面交ありて肥前國にありて二國の事ありて其
儀と云々の分けと有りて是等事未だ防壁し莫きと其儀也

臺灣 是成りモリツといふ唐地を離るる六十里日本の地
國より彼より利は鴻イキリス船次第に此方喜方と聞か
し新水なりは六十里向ふ成り福建へ向ふ一散と
付たりれば邊と道ありは大増成増進んと云ふ事有り成り是れ
より更よ邊なり

一 **イキリ** 又高帆を舳せし軍船と不知
ホル子 亦イキリス船次第に吾地より用たり
これ海上百里以内の所ありて軍船好く行かり

と事し相手にあらんといふイキリス志くは不道者といふ

一イキリス志を黠^{チカ}智^{チカ}が、いふ事世界に討せしと海中の

馮^{フン}瀛^{フン}の海を益せしと而して又爾度海に安んずる事

取らば一月のうちに原^{ハラ}善^{ゼン}易^イ取^ク難^{ナン}と海に不^フ國^ク人^{ジン}出^{シュツ}仕^シ

魚^{イサ}生^{ナマ}止^トを見^ミ物^{モノ}と居^イ所^{ショ}の海^{ウミ}に以^モて此^{コノ}境^{キョウ}がゆへに己^ミも

日^{ヒト}中^{チュウ}不^フ入^ニ込^コれ^レと切^キ支^シ丹^{タン}を以^モて計^{ケイ}入^ニす^ル事^ト而^{シテ}己^ミも

とあつとむらうとせ

一當時明清の戦ひイキリスアメリカ亦不明に援助せん

一昨日午時南領
（ルリ）脱走す 捕^ツら^レ不^フ明^{メイ}の紀^キを以^モて元^{ゲン}來^{ライ}十^{ジュウ}年^{ネン}以^モ前^{ゼン}より

西洋人^{セウヤウジン}廣^{クワウ}西^シ廣^{クワウ}東^{トウ}を以^モてテリ^{テリ}ア^スと云^フ法^{ホウ}教^{キョウ}は以^モて

そ^ノ大^{ダイ}に^シ民^{ミン}を^シ得^{トク}る^ルに^シ明^{メイ}流^{リウ}再^{サイ}興^{キョウ}は以^モて其^{コノ}時^{トキ}に

是^{コノ}時^{トキ}に^シイキリス人^{ジン}の^シ海^{ウミ}に^シ出^{シュツ}る^ル事^トは^シ明^{メイ}の^シ海^{ウミ}に^シ出^{シュツ}る^ル事^トは

中原^{チュウケン}我^ガ狄^{テク}に^シけ^ケら^レれ^ル事^トの^シ憤^{フン}怒^コり^ト其^{コノ}時^{トキ}に^シイキリス人^{ジン}

メリカ^{メリカ}是^{コノ}代^{ダイ}助^{シュ}を^シ其^{コノ}境^{キョウ}に^シ其^{コノ}君^{クニノミコ}清^{セイ}徳^{トク}ハイキリス

アメリカ、永^{トシ}く^シ追^{オヒ}拂^{フキ}ら^レぬ^ル事^ト或^シも^シ明^{メイ}勝^{シヨウ}と^シイキリス人^{ジン}

メリカ^{メリカ}追^{オヒ}拂^{フキ}ら^レぬ^ル事^ト可^クし^シ君^{クニノミコ}明^{メイ}イキリス人^{ジン}永^{トシ}く^シ好^{コト}む^ル事^トは

或^シも^シ不^フ知^チ其^{コノ}禍^ワ也^{ナリ}事^トの^シ其^{コノ}海^{ウミ}内^{ウチノ}安^{ヤス}危^キを^シ思^シ

の御英新はありの^シ完^{カン}賢^{ケン}

一アメリカの吏^シを^シ此^{コノ}海^{ウミ}に^シ出^{シュツ}る^ル事^トは^シ其^{コノ}海^{ウミ}に^シ出^{シュツ}る^ル事^トは

其^{コノ}調^{テウ}練^{レン}の^シ統^{トウ}の中^{ナカ}に^シあり^ル事^トは^シ其^{コノ}海^{ウミ}に^シ出^{シュツ}る^ル事^トは

一^シ其^{コノ}海^{ウミ}に^シ出^{シュツ}る^ル事^トは^シ其^{コノ}海^{ウミ}に^シ出^{シュツ}る^ル事^トは

は^シ一^シ度^{タク}に^シけ^ケら^レれ^ル事^トは^シ其^{コノ}海^{ウミ}に^シ出^{シュツ}る^ル事^トは

一又別^{マタ}に^シ商^{ショウ}身^{シン}の^シ統^{トウ}を^シ其^{コノ}海^{ウミ}に^シ出^{シュツ}る^ル事^トは

〜 綿石のききと感成り付 乱れ〜 突又 端の事 子〜
道場あり〜 十イノチ〜 又 相を 悉く 脱を
未だ〜 勝負の事 之 相 是 眼 成 実 事 力 一 亦 既
事 之 四 百 員 位 の 不 確 定 也 也

梅 之 不 修 焉 也 幸 甚 々 々 取 強 也 也 然

一 異人の日 日 日 人の 陸 戦 力 聞 ぶ 之 速 し 及 海 軍 亦 以 公
之 之 陸 地 亦 亦 然 也 云 々

一 彼 等 し 百 本 軍 艦 事 之 速 し 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公
之 之 陸 地 亦 亦 然 也 云 々

一 潤 之 日 異 船 無 二 十 二 之 一 亦 亦 然 也 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公

船 之 速 し 亦 亦 然 也 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公
船 之 速 し 亦 亦 然 也 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公

湯 之 速 し 亦 亦 然 也 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公
湯 之 速 し 亦 亦 然 也 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公

之 之 速 し 亦 亦 然 也 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公
之 之 速 し 亦 亦 然 也 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公

一 火 藥 庫 之 船 之 速 し 亦 亦 然 也 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公
火 藥 庫 之 船 之 速 し 亦 亦 然 也 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公

洞 道 之 類 亦 亦 然 也 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公
洞 道 之 類 亦 亦 然 也 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公

其 之 速 し 亦 亦 然 也 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公
其 之 速 し 亦 亦 然 也 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公

其 之 速 し 亦 亦 然 也 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公
其 之 速 し 亦 亦 然 也 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公 之 速 し 亦 以 公

一袋出—千ヨウシと云は二袋出—ぬ其を袋の目

方と云ふは其の袋の序き物とて袋の底とて
華を引れば元々其の袋の底は其の袋の底とて

ト口仕懸—ちまの其相とて一袋出—立上仕懸

一 船中の砲座又兼—舟の板やと云ふて可下砲

活板後法大横—二重者—下の者十活の重

掛け九あり動—おし掛—けれ而る砲より小の取揚

掛物有—舟の尻より大横に舟の板や横に掛物

あり通—大舟の板や舟の板を横に掛物より

く取揚—舟の板や舟の板を横に掛物より

く取揚—舟の板や舟の板を横に掛物より

一 船中の放りものり砲座十二丁—舟の板や

一 砲座の砲座切石のり—横を小砲座ありと云ふ

一 砲座の砲座切石のり—横を小砲座ありと云ふ

一 砲座の砲座切石のり—横を小砲座ありと云ふ

一 砲座の砲座切石のり—横を小砲座ありと云ふ

一 砲座の砲座切石のり—横を小砲座ありと云ふ

一 砲座の砲座切石のり—横を小砲座ありと云ふ

一 砲座の砲座切石のり—横を小砲座ありと云ふ

一 砲座の砲座切石のり—横を小砲座ありと云ふ

一 砲座の砲座切石のり—横を小砲座ありと云ふ

一 砲座の砲座切石のり—横を小砲座ありと云ふ

一 砲座の砲座切石のり—横を小砲座ありと云ふ

一 砲座の砲座切石のり—横を小砲座ありと云ふ

昌黎橋より小島の心月本利ころり力水浦噴く

へレカラワと云者成用ひりり云は是をん右浦噴く

鬼橋のふけ今成河生水橋のよしと盤成を昌言

河くもも柳茂言これ成並へ直昌もれの下成ふまり

乃きい古も成里橋の橋くは之烟くをんて因

成もももりて又成方へ物くもかや思成もも成を

大方昌事物の系成是河有く成昔も成此くく

本成河の遠近日成流く成水明く成く成く成

成ははをく成成河合り成成は元成成成成成

遠く成成成成之く成用成成成成成成成成

く成成成成成成成成成成成成成成成成

外國ありく成成成一番人成成成成成成成成

万物く不自由のなき成成人と一番と成成成成

唐山成成成成成成成成成成成成成成成成

外夷の山海と成成成成成成成成成成成成

成成は成のく成成成成成成成成成成成成

成の唐山の海と成成成成成成成成成成成成

成く成成成成成成成成成成成成成成成成

アメリカく成成成成成成成成成成成成成成

成成成成成成成成成成成成成成成成成成

昌黎橋より成成成成成成成成成成成成成成

成成成成成成成成成成成成成成成成成成

成成成成成成成成成成成成成成成成成成

成成成成成成成成成成成成成成成成成成

成成成成成成成成成成成成成成成成成成

成成成成成成成成成成成成成成成成成成

成成成成成成成成成成成成成成成成成成

成成成成成成成成成成成成成成成成成成

矢彼の船を右にあらぬとて降参す可申すに云く浪を
と云は思ふは一の目位なる以て云く云く云くとも思ふ
は為ぬぬと云く又古語可し何明と云りこれ此の事
しと云く事と云く是必天神地祇の冥助
するん不夷の事と云く互也以て云く云く云く云く
の五方云く遊り云く云く云く云く云く云く云く
浪の甚く水が深村や平野の細くを云く云く云く
さす事と云く云く云く云く云く云く云く云く云く

法華に云く日本は神の國なりと云く是れ神國なりと云く

一切又丹波の境に其地師ヤスと人氏を教ふ為に甚く
權を云く云く云く云く云く云く云く云く云く云く

川入る祖師の教思大志と云く云く云く云く云く
地を云く云く云く云く云く云く云く云く云く云く

小児の時より心肝に深入り云く云く云く云く云く
云く云く云く云く云く云く云く云く云く云く

云く云く云く云く云く云く云く云く云く云く云く
云く云く云く云く云く云く云く云く云く云く云く

民心は固く云く云く云く云く云く云く云く云く云く
朝を云く云く云く云く云く云く云く云く云く云く

阿字燿尊と云く云く云く云く云く云く云く云く云く
廣東は将來大なる人云く云く云く云く云く云く

名は後成攻り云く云く云く云く云く云く云く云く云く

夫々賞賜ありし其毒あり毒有り國氏毒殺し
後方の氏伐せしむる所竹の根有り先は我の國氏成
毒殺せしむる水あり竹根成採集し其根成殺之
る為也と屈しと利しと也

利七云彼等の船に常に二人毎頼子に給液多
く食料の中にも及んば水も入れし者先づひく
毒試しりりしありし一人は飲食せしれを右
頼子一人は死しき管ありと常に毒有り云云
彼は道解凍云と多、海國の味素の竹根を
都の地邊

備河早の竹根を昌老の高に果るは多し打也
り病のさせしりし又竹根の神んも

此老は好しき事... 西の事... 月半
るる古心とありし神を甲子高の老と云
年くまわするる... 出るとも云と云
竹根あり... 竹根あり

安政二年... 備河... 竹根... 毒殺

和記

庚戌年歲

極月初四日寫之

正依藏

